

<経済解析室ニュース> 平成29年3月13日

平成29年1月の第3次産業活動指数は、前月比横ばいで、狭いレンジでの動きが続いている。卸売業の不調が続き、対事業所サービスは2か月連続の低下。一方、対個人サービスは、2か月連続上昇で、10か月ぶりの高い水準に。

平成29年1月の第3次産業活動指数総合は、季節調整済指数103.9、前月比横ばいとなりました。昨年12月は3か月ぶりに前月比低下となり、サービス産業の活動が低下傾向に変化するのかと懸念されましたが、年明け1月は、横ばいに「踏みとどまり」ました。

1月の指数値103.9と、昨年6月から続いている「104を挟んだ動き」が続いており、サービス産業全体の総合指数としての「なぎ」の状態が、今年1月も続いています。

卸売業が2か月連続低下。8業種が前月比上昇

1月のサービス産業の業種別動静をみると、サービス業全体が前月比横ばいとなりましたが、全11業種のうち8業種が上昇となっており、その中でも上位2業種、「医療、福祉」と事業者向け関連サービスの上昇寄与で全上昇寄与の半分程度となっていました。2番手集団4業種の寄与も同程度でした。

ということは、1月の上昇業種の影響度は、薄く広く分布していたということになります。

他方、1月の低下業種では、卸売業の低下寄与が圧倒的に大きくなっていました。要すれば、多くの業種の「薄い」上昇寄与を、卸売業の大きめの前月比低下が相殺してしまい、サービス産業全体としては、前月比横ばいとなるという構図だったようです。

1月は、対事業所サービスが2か月連続の低下

1月は、対個人サービス活動指数は、指数値105.1、前月比0.2%上昇と2か月連続の前月比上昇でした。平成28年初頭は比較的高いレベルにあった対個人サービスは、昨年半ばにはレベルを下げている、「個人消費不振」の様相でしたが、そこから徐々に回復基調が進み、今年1月には、昨年初頭の高いレベルに戻ってきたということになります。

他方、1月の対事業所サービス活動指数は、指数値103.0、前月比マイ

ナス0.3%低下となりました。昨年の第2四半期から3期連続で前期比上昇が続いており、第3次産業総合の平成28年前年比0.7%上昇も、ほぼ全て対事業所サービスの上昇寄与によるものでした。しかし、対事業所サービスの指数の推移は、昨年末から若干勢いがなくなってきており、年明けも2か月連続の前月比低下となっています。

昨年のサービス産業を支えていた対事業所サービスが、鉱工業生産の低下とともに、製造業向けを中心に低下しており、対個人と対事業所で対照的な動きを見せました。

基調判断は、「横ばい」に

業種的には11業種のうち、8業種と多くの業種が前月比上昇していましたが、昨年後半好調な推移となっていた鉱工業生産や出荷が1月に前月比低下となったことを背景に、卸売業が2か月連続の大きめの前月比低下を見せました。このため、サービス産業全体としては、前月比横ばいとなりました。

このような動きをうけ、第3次産業活動の基調判断については、「横ばい」で据え置きたいと思えます。

結果概要のページ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/result-1.html>

参考図表集

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/result/reference/slide/result-sanzi-sanko-201701.html>

『就職にも使える！ 第3次産業活動指数』（マンガ）

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20160405ita_manga2016.html

○問合せ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1511（代表）（内線2854）、03-3501-1644（直通）

FAX：03-3501-7775

E-MAIL：qqcebc@meti.go.jp